「バスDGsの実現~未来にさくらやまなみバスを~」

小学校 X 地域 X 交通事業者 X 市

- 正斉/兵庫県西宮市立北六甲台小学校元担任教諭 ・ 佐藤 勲/さくらやまなみバス利用促進協議会会長(地域) 外村 健太 諏訪 貴大/阪急バス株式会社(運行事業者) ・ 三澤 孝之 船越 和博/西宮市役所交通政策課(さくらやまなみバス事業主体)

一背景と目的

西宮市立北六甲台小学校は、西宮市北部の山口地域にあり、武庫川支流の有馬川や六甲山系の山々 をはじめ豊かな自然環境が残っている。地域には鉄道駅が無く、市内にある公立高校への通学や南部 市街地への公共交通機関として、地域住民の思いを実現する形で、 2009年4月よりさくらやまなみバ スの運行が開始された。近年、コロナ禍の影響により乗客数が減少しており、利用促進が必要であっ

地域に走るバスという教材を通して利用促進活動等に取り組むことで、誰もが過ごしやすく優しい 地域社会の形を考え、持続可能な社会の実現を考えることをねらいとする。

さくらやまなみバスとは 神戸市北区

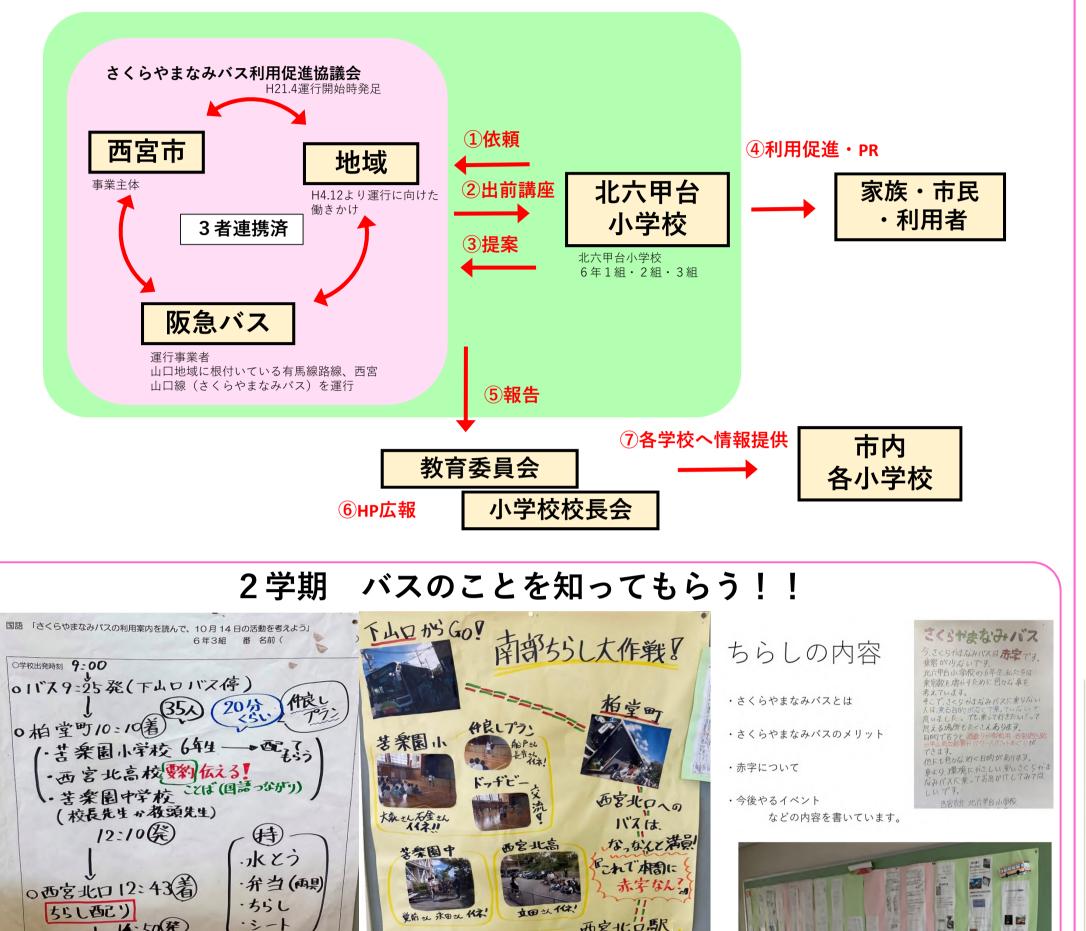
取組概要

小学6年生の社会科授業で児童が確認した「バスの便数が少ない」という地域の課題から、「さくらやまなみバスの利用者を増やす取組を基とした、地域活性化、社会参画へのつ ながり」が総合学習の題材とされ、児童自らが市に「バスの便数を増やしたい」というメールを送付した事をきっかけに、小学校・地域住民・バス事業者・市役所の4者が連携し取 り組んだもの。地域にさくらやまなみバスの存在を知ってもらうことや、西宮市の税金により運行していることを伝える活動を児童の主体的な学びの中で行った。

バスDGs(M・M)推進体制



導入経過 社会科授業と一通のメール



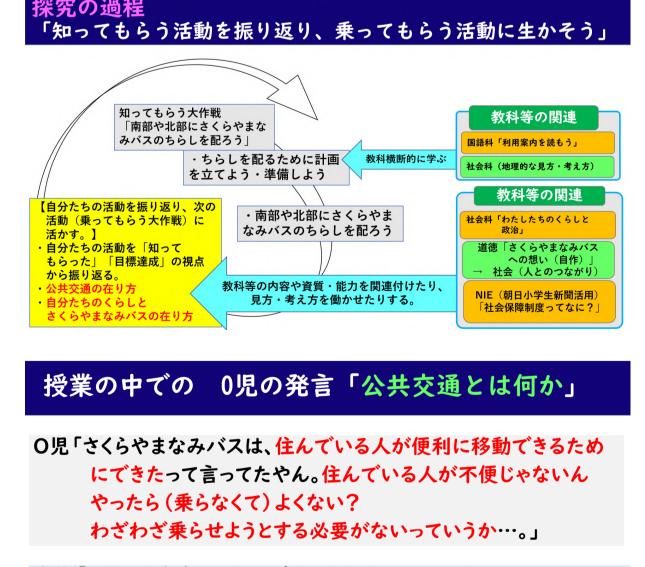




成

自主学ノート 乗らなきゃなにもはじまらない!!

「バスDGsの実現」単元において、バスの乗客数を増やす取組は、児童による地域の魅力を伝える周知活動や募金活動による直接的な広報効果や収益効果、また児童自身が将来 の地域の姿や公共交通のことを考えるきっかけとなった。さらに児童が大人になった未来を考えるように、活動を見守る大人が未来を考えるきっかけとなる。



先生「そもそも赤字ってなにでまかなわれているの?」 (税金・国とか県とかの補助金)つぶやき M児「国の助成金・税金」(社会的な知識) O2児「最終的には、自分たちが払っていることになっている。」

金を使うことはいいのか?! 【公共交通についての本質を考える!!】 思っています。乗ってもいいけど、何を目的で乗ったらいいのかが しっかりしていたら 乗る人は増えると思う。

あとはバスの目的で地域の方が言ってたけど、人が触れ合ってほしいとか

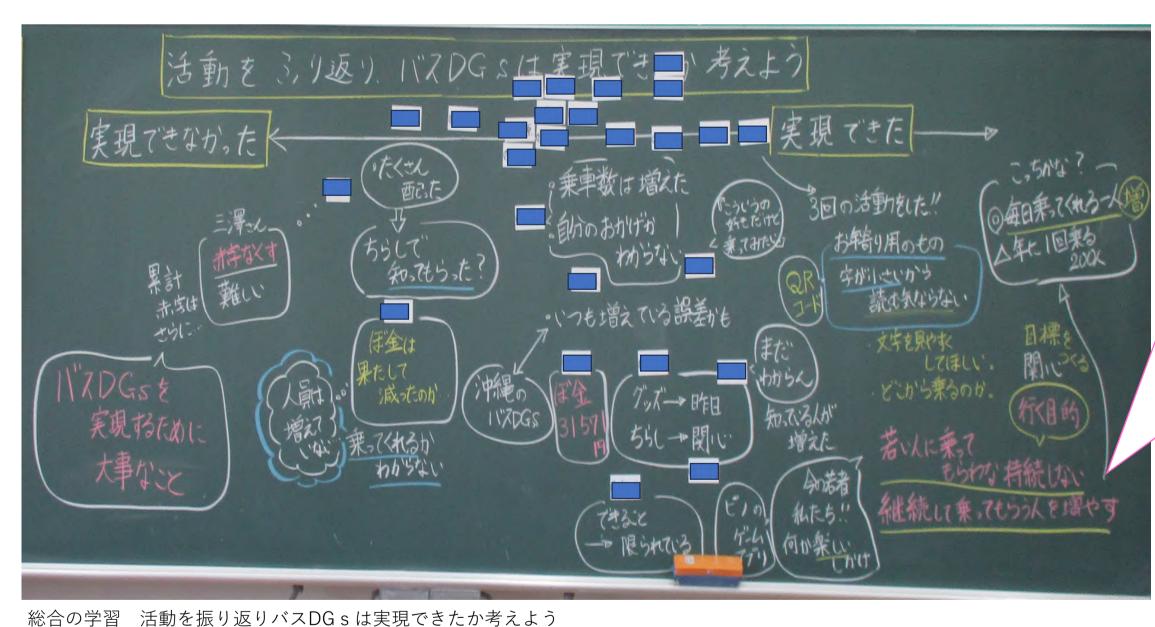
S児:赤字になりすぎたらあかんけど、黒字というよりは、乗ってもらいたい。

地域のことを知ってほしいというのが目的やから赤字自体は悪くなさそう。 Y児:税金使うことはいいとは思うけど、そもそもこんだけ赤字やのにつぶれへんのは、 合った方がいいと思うから。佐藤さんとかほかの人たちがいる限り、つぶれることは O児:ここら辺は行く理由がないし、こっちにくる必要がないし、それでも便利に過ごしている、 便利に使えているから、その上で赤字ができちゃったというは、しょうがない気がする。

T児: 税金をもっと有効活用できる方法、例えば病院の話とか、市の大事な施設を建てるため にも使える。さらに、さくらやまなみバスが黒字化したら、バスの運行以上に良い使い方 があるんじゃないかなと思う。 K児:赤字はないほうがいい。いろいろなところに使える。例えばロシアとウクライナとか。

ちらしを配って知ってもらう活動を北部と南部で実施し、その後、ちらし で知ってもらうことができたか、目標は達成されたかの2つの視点で振 り返りを行った。

振り返る中で、北部と南部の行き来を増やし、赤字をなくすことが重要 だと話し合いが進んだ。話し合う中で、そもそも移動手段で困っていな いのに、さくらやまなみバスに乗ってもらう必要があるのかということが 論点となった。公共交通の本質に迫る話し合いが行われた。地域の方 の思いや願い、赤字をなくし、ほかのところに税金を使う方が良いなど 子供たちが話し合う中でさまざまな学びがあった。



単元終末の振り返り





★子供なりの応え★

☆行く目的をつくる。

☆若い人に乗ってもら

わないと持続しない。

☆継続して乗ってもら

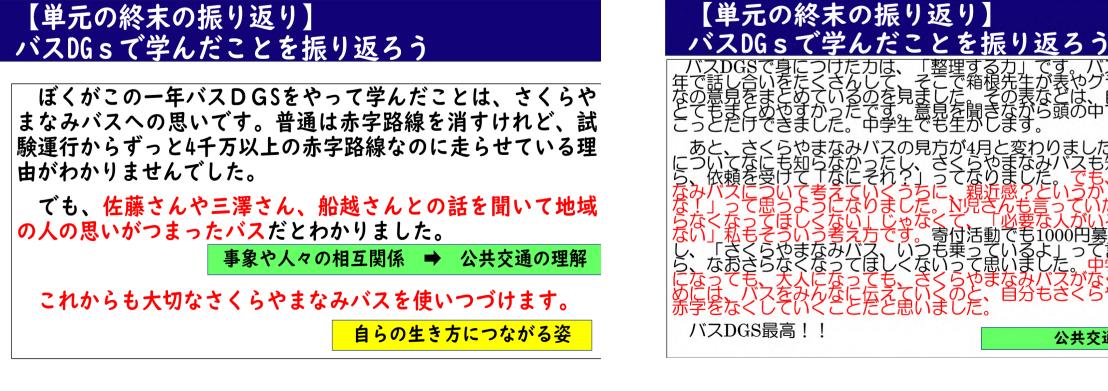
→ 1回しか乗らない

200人より毎日乗っ

てくれる | 人の方が大

公共交通の理解・愛着

う人を増やす。



「見出し」 地元バスPR児童大作戦 西宮・北六甲台小6年現状学び 乗客増へグッズ DR5.3.8付 読売新聞 R5.3.24 シティプロモーション 記事・カラー写真掲載 サイトHPに活動状況掲載 「見出し」 募金活動をみて西宮市にふるさと納税 赤字運行の「さくらやまなみバ された県外在住者の声 「娘がさくらやまなみバスを利用した 児童ら「増やせ乗客」大作戦 際に、小学生が寄付を募ってましたが、 タイミングが悪く、寄付できなかった 北六甲台小6年生自作チラシ配 ので、この形で寄付させていただこう り寄付募る と思いました。6年生の手作りクリア ファイルを頂いたようで、是非、応援 ○R5.3.10付 神戸新聞 したいと娘が申してました。」

主な広報実績など

記事・写真・運行ルート概要掲

阪急バスより 1年間を通して小学校授業でのモビリティ・マネジメントの取り組みははじめて の経験となりました。 出前講座では、公共交通の重要性、ダイヤの作成方法、経費と収入の関係などに

ついて、乗り方教室では、運転手の死角を体感していただくことなどを通して、 大型バスの特性について、より深い内容を説明できる機会を与えていただきまし た。また、沿線の北六甲台小学6年生に路線バスの現状や課題をお伝えできまし た。路線バスが、児童自身の生活レベルに落とし込み考えることができる、問題 提起、原因調査、課題解決に向けての探求課題の一つとなれば幸いです。 持続可能なバス事業「バスDGs」の実現には、事業者努力だけでできることに は限界があります。今回と同様の取り組みが、学校教育から始まり広がることに より、地域で守り維持いただける公共交通の好循環を作るきっかけとなることを 期待しております。

()まとめ

小学校6年生は、地域社会、政治、税金の使い道など公共に対する学びが充実する学年である。地域の想いで実現したバスは教材としても適していたと考える。取り組み事例が市 教育振興基本計画の行動指針に掲載され、市内小学校長会へ説明することで、今後の活動に繋がるよう配慮した。交通事業者や自治体発信ではなく、学校主体で取り組んだ1年間の 学校教育MMの事例として関係者の参考となれば幸いである。